



ノロウイルスとは？

管理栄養士 戸山 清美

近年、ノロウイルスによる感染症は多く発生していましたが、今年はノロウイルスによる食中毒が急増しています。

ノロウイルスとは一体どのようなモノなのか、簡単に紹介したいと思います。

①ノロウイルスの特徴

ノロウイルスの構造は、表面がタンパク質で囲まれ、その中にRNAが1本入っているだけの、極めて単純な構造です。大きさは直径約38nmです。球形で表面に構造物質が認められることから、小型球形ウイルスと称されていました。

ノロウイルスの増殖系は、いまだに組織培養、実験動物で見出されていないので、正確な意味での血清型、感染性が不明です。増殖できないことが、ノロウイルス研究の進展に大きな障害となっています。なお、ノロウイルスは自己増殖を有しないので、人の小腸上皮細胞でのみ増殖が可能で、食品中あるいは環境中で増殖することはできません。

②ノロウイルスの歴史

ノーウォークウイルスは冬期嘔吐下痢症患者のふん便から電子顕微鏡観察で発見食品衛生法の改食中毒物質に「小型球形ウイルス」と「その他のウイルス」を加えた生食用カキの「海域」の記載国際ウイルス命名委員会が「ノロウイルス」と命名食品衛生法の一部改正し「小型球形ウイルス」を「ノロウイルス」とした。

③ノロウイルスの感染症

ノロウイルスは、乳幼児から高齢者に至る広い年齢層で急性胃腸炎を引き起こします。この感染症は冬期に多発します。すなわち、11月頃から流行が始まり、1月・2月がピークとなります。その後患者数は著しく減少するものの、年間を通して患者が見られます。

ノロウイルスは乳幼児の感染性胃腸炎の主病原ウイルスで、ノロウイルス以外のウイルス、細菌等によっても発症しますので、ノロウイルスが占めるデータはありません。学生、成人、高齢者等の広い年齢層で、多数の人が罹患するので、最も患者数の多い感染症と言えます。

④ノロウイルスの臨床

ノロウイルスは非常に感染力が強く、口に入った後、12～72時間(潜伏期間)で発症します。小腸の上

皮細胞に感染し増殖することから、小腸に炎症を起こし、腹痛、下痢を発症します。また、胃の運動神経の低下・麻痺が伴い、胃の内容物を小腸におくる機能が低下あるいは麻痺し、嘔気、嘔吐が起こります。ノロウイルスの場合には特に、嘔吐が突然、強烈に起きるのが特徴です。したがって、嘔吐の際にはトイレに行く時間もなく、室内、身の周りを汚してしまうことがあります。このことが、感染拡大防止を困難にしている一因です。

一般的に、嘔吐は子供と高齢者に、下痢は成人と高齢者で高率に見られます。下痢は水様性で、重症例では1日に十数回も見られますが、通常は2・3回で治ります。ノロウイルスに直接効果のある薬剤はないので、下痢症状が強い時には水分の補給等の対症療法を行います。しばらくはノロワクチンが開発されることもありません。その他の症状としては、発熱、筋肉痛、頭痛等の症状が見られますが、いずれも軽度です。

しかし、乳幼児、高齢者等の抵抗力の弱い人がノロウイルスに感染すると脱水症状になりやすく、また高齢者では吐物により誤嚥性肺炎や気道の閉塞による窒息を起こし、重症化する事がありますので感染者の健康観察をしっかりと行いましょう。

最後に、ノロウイルスによる感染症は、多くの場合、ウイルスに触れた人の手を介して感染が拡大します。このウイルスの予防に特別な手段はありません。日頃からの健康管理・衛生管理(手洗い)が感染予防の基本です。その上で、身の周りや環境のウイルス汚染の防止に努めていかなければなりません。



「楽しく食事をしよう」

～野外での食事摂取を試みて～

西2病棟 三善裕子 他勉強会メンバー

当院は精神科専門病院であり、当病棟は軽度から重度の認知症患者が入院している。

症状により、「食事に対して食べる意欲が低下している。」「食事に集中できず摂取時間がかかる。」「高齢により嚥下機能が低下している誤嚥リスクが高い。」と

いう方達が当病棟で約一割生活、療養している。そして日中の殆どを棟内で生活しているが屋外に出る機会があまり無い状況である。

私達は日常生活で、気分転換で外出したり、外食をしている。しかし入院患者は毎日、同じ場所、空間で寝食を過ごしている。ナイトンゲールは「看護とは、新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静けさなどが適切に整え、これらを活かして用いること、また食事内容を適切に選択し適切に与えること。」と述べている。また「病人を看護してきた私の経験のすべてが語る、動かしようのない結論がある。それは新鮮な空気に次いで病人が求める二番目のものは、陽光において他にないということである。」とも述べている。そこで、新鮮な空気を吸い、陽光を浴びながら食事をすることによって日常生活の中に新たな刺激を与えることで患者に今回は「食」に対して変化や効果があるか研究し、その中での変化や効果が見られたのでここに報告する。



通所リハビリ ふきのとう
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス

<http://www15.ocn.ne.jp/~uenokoen/>

E-mail

研究期間	2011年7月14日～10月27日の4カ月間 毎週2回のペースで実地する。
対象者	69歳～94歳の男性2名、女性5名
方法	棟内ベランダ、若しくは藤棚にテーブルセティングし弁当形式も採用しながら、食事時の表情や言動、摂取状況を専用フェイススケールを用いてチェックする。
経過・結果	7名それぞれに変化が現われた。食事時の笑顔や会話が増え、食事に対する集中力が生じた結果、食事時間が短縮された方もいた。日中大声や徘徊が著しかった方の頻度が減少し穏やかに過ごす場面が見られるようになったり、ムセやすい方がムセなく摂取できた。
考察	「美味しい」という言葉が多く聞かれたり、表情の変化が増えた。(・・・以上一部を抜粋) 屋外に出ることで、風景が変化し新鮮な空気や陽光を浴びる事で解放感も得られ、意欲の向上に繋がったと思われる。今回の試みで患者が楽しい時間を共有することができた。
おわりに	今回、屋外で食事する中で、患者にも喜んでもらえ笑顔が多く見られる楽しい食事が見られた。新鮮な空気を吸い、陽光を浴びる事が大切であるという再認識をすることができた。



「認知症を考える日」～今日からできる認知症予防～

日田市認知症支援体制づくりプロジェクトメンバー 益田 信一

今回は日田市認知症支援体制づくりプロジェクトによる認知症に関するキャンペーン開催についてお知らせします。日田市では増え続ける認知症高齢者への対応の重要性を鑑み、専門的知識や技術とネットワークを駆使し、認知症予防や認知症を理解してもらう活動、認知症の方とその家族への支援を行っています。家族や福祉サービスのみで認知症の方を支えることには限界があり、今後も地域住民の方に認知症に対する知識や理解を深めてもらうことが大切になります。そこで今回のキャンペーンは、今以上に地域住民やボランティアなどの多様なネットワークが連携して、認知症になったとしても住み慣れた地域で安心して暮らせる街づくりのきっかけになることを目的としています。

開催日：平成25年3月10日（日） 午後13：30～16：30（13：00開場）

会場：パトリア日田 大ホール

内容：第1部「日田市における認知症支援事業の取り組みについて」

- 認知症啓発劇団「あやめ」による舞台劇『おばあちゃんが認知症になった』
- 認知症を楽しく予防「すずめの学校」
- 行方不明時に役立つ捜索の仕組み
- 家族・介護者相談会「一人で抱え込まないで、誰かに話してみませんか？」

第2部「川島隆太教授講演会」

～『脳を鍛えイキイキと生きる』～



*当日は整理券での入場となりますので、下記でのお申し込みが必要になります。

日田市役所（長寿福祉課）、各包括支援センター、日田市社会福祉協議会各支所
認知症の予防や日田市の取り組みについて知る良い機会ですので、多くの方の参加をお待ちしています。